

自然史博物館放浪記 9
森に還る ～キューガーデン～

延原尊美



写真1 下から見上げた樹冠回廊

ロンドン郊外にあるキューガーデンは、18世紀から続く世界最大の植物園です。膨大な植物標本を収蔵する植物研究の拠点であり、巨大温室、バラ園、宮殿やパゴダなど多くの見どころを抱えた観光地としても有名で、2003年にはユネスコ世界遺産にも登録されました。しかしなんとといっても、この植物園の魅力は広大な敷地に14,000本もの巨木からなる森林が広がっていることで、その中では時の流れ方が違って見えるような安らいだ気持ちになれます。

キューガーデンでは、そんな森の不思議を立体的に楽しめる工夫がなされています。Xstrata Treetop Walkwayと呼ばれる、地上からの高さ18m、長さ200mの回廊が、森林のてっぺん（樹冠部）にわたされているのです（写真1）。400トンもの鉄製橋脚に支えられた回廊で、オープンしたのは2008年、テムズ河畔の大観覧車ロンドン・アイのデザインでも有名な建築家マークス・バーフィールドによって手がけられました。多くの家族連れが樹冠散歩を楽しむだけでなく、学校団体の野外学習にも使われているようです。来園者は、サクランボ、ブナ、マロニエ、カシ



写真2 樹冠の中へ入っていく

などからなる広葉樹林の木々のてっぺんをめぐって歩いていきます（写真2）。そこからは、広大なキューガーデンの外側、ロンドン郊外の地平線までを見晴らすことができます。このような絶景に加えて、普段は目にするのでできない森林樹冠部の生態系を観察することも大きな魅力です。樹冠部は、鳥や昆虫、地衣類や菌類との共生によって成り立っており、地上の生態系とは別世界ともいえます。リピーターになれば樹冠環境の四季折々の変化をみることもできるそうです。

さて、人類の先祖である霊長類が栄えたのは、花や実をつける枝々が重なり合う広葉樹林の樹冠という環境が白亜紀になって出現したためという考え方があります。そう考えると、この森林回廊はご先祖様の住み場所を追体験する装置と見ることもできます。もちろん植物の種類は当時と違ってはいますが、樹冠回廊を巡ってみると、地表に暮らす今の私たちからは失われた、世界の見方や考え方が樹冠の暮らしにはあったのではと感じます。

なお、8月の暑さを感じさせない樹冠に身を置いて、遠くに広がる都心部にも森が点在している景色を眺めると、森が地球環境や都市環境の維持にどれだけの貢献をしているかも実感できます。公式ガイドブックによれば緑の領域が10%増えれば、都市の夏の気温を最大で4℃抑えらえるとあります。多くの人が、樹冠に還り、地球の過去や未来について見晴らしてみる機会をもてたらと思います。